

# 音楽科 学習指導案

日時 令和 5年 8月 29日(金) 4校時

場所 音楽室

生徒 恵庭市立柏陽中学校 3年 3組 31名

指導者 高橋 陽子

## 1. 題材名 曲にふさわしい音楽表現について考え、合唱してみよう

### 2. 単元観

#### (1)教材について

①主教材「はじまり」(工藤直子作詞・木下牧子作曲)

②教材選択の理由

3年3組の学級合唱に選ばれた楽曲である。ア・カペラで始まり、全体的にはやや難度の高い楽曲ではあるが、声部の重なり方、全体の構成など、テクスチャを意図的に作り上げていく楽しさを味わうことができる曲である。

#### (2)指導の方針について

本題材は、「はじまり」を教材とした【A 表現】歌唱の題材である。

本題材を通して、混声三部合唱『はじまり』の曲想と歌詞の関わりや表現方法、合唱全体の響きに関心をもたせたい。また、「はじまり」のもつ曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりや声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で歌唱するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫できる力を身に付けさせたい。

#### (3)研究(主題や仮説)との関わり

ねばり強く学び、未来を切り拓く確かな学力の育成  
～思考力・表現力・判断力を求め、深い学びを実現する「読み解く力」を目指して～

「合唱コンクールで良い演奏をする」という目標があることや、自分達で選んだ楽曲ということから教科書などの内容よりも意欲的に取り組める教材である。その主体的に学ぼうとする態度をうまく活用し、曲の最初にあらわれるアカペラの演奏方法、表現方法についてパート、小グループなど様々なグループにおいて話し合い、考えさせ、楽譜の読み取りから音楽の表現方法を学ばせたい。楽譜には専門的用語が多く使われている。黒板に用語の意味を掲示し、専門的用語を生徒が理解しやすいよう、発問を工夫する。また、順を追って段階分けして授業を展開し、より多くの生徒が主体的・対話的に学べるよう努める。

### 3. 生徒の実態

3年3組は、歌唱、器楽、鑑賞、創作とどの分野においても意欲的に授業に取り組むことができる。発言も多く、特に合唱では意欲的にパート練習にも取り組んでいる。歌うことに抵抗がなく、クラス全体で声をだしていこうという雰囲気をつくることができる。一方で、楽譜の読み取りや、どのような表現をしたらよいか、ということに対して苦手意識をもっている生徒は多く、専門的用語の理解を深めるなどして苦手意識を解いていく必要がある。本題材の学びを通して、音楽を理論的に読み解き、それを表現していく力を育てたい。

### 4. 題材の目標

- (1)「はじまり」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりや声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関りについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌唱するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知・技)
- (2)「はじまり」の音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「はじまり」の歌唱表現を創意工夫する。(思・判・表)
- (3)「はじまり」の曲想と歌詞の関わりや表現方法に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(態)

### 5. 単元の指導計画と評価計画

#### (1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 「はじまり」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容やとの関りについて理解している。</p> <p><b>技</b> 創意工夫を生かした表現で「はじまり」を歌うために必要な発声言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p><b>思</b> 「はじまり」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと、感受したこととの関わりについて考え、「はじまり」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。</p>	<p><b>態</b> 「はじまり」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

・評価計画

時数	内容	知技	思判表	主体的	評価規準	評価方法
1	音とり			○	<b>態</b> :各パートの役割を理解して歌っている	学習カード 観察
2 本時	アカペラの部分の表現について考える		○		<b>思・判・表</b> :歌詞の内容や曲想を味わい、言葉のまとまりや旋律の関係を捉えて音楽表現を工夫している	ワークシート 観察
3	音とり			○	<b>態</b> :自分の苦手なフレーズを進んで練習している	学習カード
4	音とり			○	<b>態</b> :自分の苦手なフレーズを進んで練習している	学習カード
5	合唱 表現方法を工夫する	○	○		<b>知・技</b> :歌詞の内容や曲想、旋律のまとまり、声部の役割と全体の響きとの関りを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 <b>思・判・表</b> :どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている	ワークシート 観察
6	合唱	○	○	○	<b>知・技</b> :音程が正確に取れている <b>態</b> :正しい姿勢、歌詞を覚えている、意欲的に演奏している <b>思・判・表</b> :思いや意図をもって演奏している	実技テスト

## 6. 本時の目標

### (1)本時の目標

歌詞の内容や曲想を味わい、言葉のまとまりや旋律の関係を捉えて音楽表現を工夫する。【思・判・表】

### (2)本校の研究との関わりについて

- ①課題設定と問題提示の必然性を把握し、発問の工夫を通して生徒の主体的な思考を促す  
よりよい演奏をするために必要な表現の工夫について、自分たちでアイデアを出して試してみるという流れができるような発問、声かけを工夫していきたい。
- ④ファシリテーションを活用した授業の単元計画を練り、実践を積み重ねる  
一人では思いつかない考え方に触れられるような、グループワーク、ファシリテーションを取り入れる。

(3)石教研音楽部会の研究内容について

「音楽的な見方・考え方を働かせ、深め合う多様な学習活動のあり方の研究を行う」という観点から、今回は「はじまり」冒頭部分のアカペラ演奏について、音楽表現をどのように工夫することでより良い演奏になるのか、グループワークを通して全体の考えを練り上げていく授業にしていきたい。

7. 本時の展開（別紙）

8. その他

(別紙)

	主な学習内容と学習活動	教師の働きかけ	□留意点■研究○評価観点●評価方法 ▲努力を要する生徒への手立て
課題設定 ・課題把握 15分	<ul style="list-style-type: none"><li>授業前にファイル、学習カードを配布</li><li>強弱記号の小テストを実施 Chromebook、フォーム使用 机上は Chromebook と楽譜のみ、 解答確認後、早く終わった生徒は Chromebook を閉じて、楽譜を見て待つ</li><li>全体で発声練習をしたのちに、パートで音を確認する。</li><li>アカペラ部分を合わせて録音する</li><li>録音を聴く</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>前時の確認</li><li>授業の流れを提示（板書）</li><li>指示で一斉開始（最大4分）</li><li>全員が終わったのを確認する</li><li>素早く短時間で確認を行う</li><li>録音する</li><li>録音を聴かせる</li></ul>	<p>□Chromebook の指示を徹底する。うまく接続できない場合再ログインすることになるので、生徒がすぐ入りなおせるよう事前指導しておく。</p> <p>□AC アダプタ、予備機を準備しておく。</p> <p>□アカペラの部分のみを確認する</p> <p>□スピーカーの準備</p>
課題解決 33分	<p>合唱コンクールの出だしで聴衆の心をつかむためには、何に注目して練習したらよいと思う？</p> <ul style="list-style-type: none"><li>ペアや近くの人とパッと話し合う 予想される答え 「音程」「強弱」「そろえる」</li></ul> <p>出だしのアカペラを、どのように演奏したらよいのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"><li>パートごとに、FT を活用して課題について考えを話し合う ジャムボードの楽譜も活用する（8分間）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒からでできた言葉をうまくつなげて、課題につなげる</li><li>生徒の様子を見ながら、課題を提示していく。</li></ul>	<p>■音程が大前提ではあるが、今回は表現の工夫につなげたいので、強弱や言葉を大切に歌うこと、ブレスの位置を意識すること、パートのバランスなどに着目させられるようリードする。</p> <p>▲グループ分けの段階で、ある程度話し合いが成立するよう配慮する</p> <p>●ジャムボードに名前を残させる</p> <p>○【思・判・表】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとに考えた意見をもとに、班ごとにFTを活用してさらに考えを深める（5分間）</li> <li>・教室全体で考えをまとめていく（4分間）</li> <li>・実際に考えた表現を演奏できるように練習していく（10分間）</li> <li>・最後にアカペラ部分を歌う</li> <li>・まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここは各グループで出た多様な意見について確認する場とする</li> <li>・教師がファシリテーターとなり、この後どのような表現方法を意識して演奏していくのか方向づけしていく</li> <li>・録音しておく</li> <li>・最初と最後の録音を比較させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■個の理解力、状況に応じた机間支援を行う。</li> <li>□ジャムボードを電子黒板に写して楽譜に書き込みをしながら確認する</li> </ul>
<p>定着 ・ 習熟</p> <p>2分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価を記入させる。</li> </ul>	

強弱、言葉の発音、パートのバランスなどに注目して演奏する